

色々な情報はあっても、
どれがいいんだろうか
自分には合わないなあ

研究はあるみたいだけど、
どうやって日々の生活で
取り組んだらいいのかな

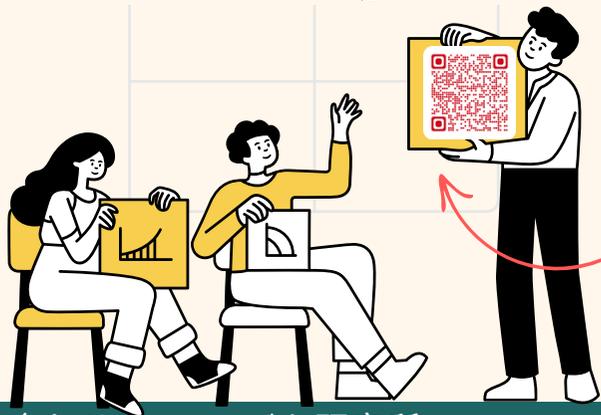
そこで!

らぶはびでは、地域みなさんと一緒に
研究知見を生み出し、共有することが
大切だと思っています。



らぶはびプロジェクトに
参加してみませんか?

色々な人たちに「研究者」になってもらったり、
研究に協力してもらったりして、
「使える・愛される」モノを創っていきたいです。



気になった方は、
ぜひこちらの
QRコードから!

らぶはび プロジェクト

「らぶはび」ってなに?

みんなが「いいね」「Love」を
できるだけ多く体験できるような
環境を作るために、
個人の行動をふりかえって、
習慣「Habit」作りをすること。

「らぶはび」は、この環境を目指して
みなさんと一緒に
創っていきたいと思っています。

らぶはびプロジェクト

エンパワメント

「いいね」をたくさん経験できるように、
地域のみんな(子ども・親)がこうなりたい、って
思うことを手伝いたいと思っています。

「ちがいは、個性の一つ
でも、ADHDのように、ある行動パターンがあると、
うまくいかないなあって思うことも多くあるかもしれません。

コミュニケーション

みんなの色々な経験から、たくさんの知識が生まれる。
その知識を、多くの人と様々な形で、
共有することの手助けをしたいと思っています。

ことばだけでは伝わらないこともあるから、
色々なメディア(アニメ)を使いたいと思っています。
そして、共有が「楽しい」って思える場所づくりをしたいです。

らぶはびのせかい

研究者の視点

ひとそれぞれの行動や
気持ちのパターンを明らかにしたり、
どんなサポートがうまくいくか、
色々な視点から考え、取り組んでいます。



みなさんと
いっしょに、いろいろと
考えていけたらなあ

おおきな世界

地域内のサポートや行政の方針。
「いいね」が多くなる環境のために
必要な要素を理解するべく、
研究や地域連携活動を行っています。

ミーティング、シンポジウム、
映画上映会、オンラインインタビュー



ちいさな世界

自分の中、または家族内の世界。
それって一番大切。
でも孤独を感じる時もある。
とくに、自分や子どもがちょっと
まわりと違うな〜って感じるとね。



そんな時、気軽にアクセスできる
サポートを届けることで、
ひとりひとりの「いいね」を多くしたい。
そのためのプログラムや
資料を作っています。



ペアレント・サポート
アニメ、アプリ

誰かを「変える」「なおす」のではなく、
地域が支え、個人がサポートの必要性を共有できる
環境作りに貢献できれば嬉しいです。

らぶはびプロジェクトが 目指していること



インパクト活動



短期アウトプット ゴール

中期アウトカム 影響

長期ビジョン インパクト

動画の共同作成

研究に基づいた・分かりやすい
サポート動画



知識・経験の共有

親子サポート動画
LINE配信

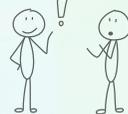
アクセス容易な親子サポート



研究知見の社会実装

シチズンサイエンス
参加型研究

地域参加者のエンパワメント



サポートコミュニティー
連携・形成

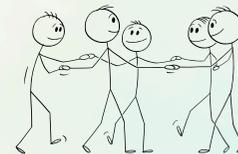
サポート資料の拡散



地域の人々の理解・受け入れ



ADHDなど様々な
特性を持つ
子どもたちと家族が
生活しやすい環境



らぶはびチーム

OIST子ども研究所

沖縄科学技術大学院大学(OIST)の発達神経生物学ユニットにある子ども研究所では、日本や海外で経験を積んできた研究員らが、地域の子どもたちやご家族のみなさんの協力を受けながら、ADHD(注意欠如多動症)の研究を行っています。行動や脳の反応パターンの理解を深め、子どもたちや家族への支援に繋がりたいと思っています。また、沖縄や日本の文化にあった支援を考えています。らぶはびは、そんな研究所の活動の一つです。



らぶはびチーム
拡大!

追加の動画作成決定! 沖縄コミュニティの意見を取り入れ、連携を強めた11月
→沖縄おしゃべり会開始!

早稲田大学博士課程を卒業、公認心理師・臨床心理士の資格を取り、特別研究員としてOISTに着任した小口真奈(まな)の報酬(ご褒美など)への反応を測定するツールの開発、研究知見の社会実装、支援プログラムの普及を目指し、らぶはび活動に参加。

国立研究開発法人科学技術振興機構(COI-NEXT)の助成を受け、沖縄を中心とした日本の家族や支援者の経験アイデアを取り組入れるためのインタビュー・オンライン調査の実施。

株式会社ビープロダクション代表の高部優子(ゆうこ)が、らぶはびアニメを作成。システムエンジニア、高等学校の社会科教員、NHKディレクターとしての経験及び清泉女子大学大学院と横浜国立大学での平和教育や紛争解決教育の研究を生かし、プロジェクト地域連携コーディネーターとしても活動。

OIST研究者と沖縄・宮崎コミュニティステークホルダー共同シンポジウム開催!



OIST子ども研究所グループリーダーの古川絵美(えみ)は、米国バージニア州で児童心理学を学び臨床心理学博士及び臨床心理士の資格を取得。一緒に基礎研究をやってきたブラジルの共同研究者と支援プログラム(HabitE)を先行開発。

沖縄県の助成を受け、琉大工学部の城間政司助教授と連携し、らぶはびのペアレント・サポートプログラムをLINEで自動返信するシステム開発をはじめ。

知的財産・法学修士、琉球大学研究推進機構研究企画室室幹事・リサーチアドミニストレーターの山田典子(のりこ)は、OISTと琉大の共同研究の促進、沖縄県内の様々な地域との連携、行政方針への影響に焦点をおいて活動。トヨタ財団の助成を受け外国にルーツを持つ家族にもらぶはび・HabitEを届けることを目指す。

宮崎県の明星幼稚園を中心とし、困り感がある家族が気軽に集まれる場所づくりを目指している保護者+支援者グループかららぶはび活動に参加。動画作りや研究データの集積を共同で行う。

カリフォルニアで臨床心理学と表現アートセラピーを学び、宮崎国際大学准教授の公認心理師として地域連携の活動を続ける笠井綾(あや)が、えみと一緒に、日本学術振興会科学研究費の助成を受け「らぶはび」プロジェクト開始!

らぶはび先行研究:
保護者を応援する「切り替えの巻」の6本の短い動画と毎日のヒント、その日の振り返りのメッセージがLINEで定期スケジュールで送られてきます。プログラム参加前後に質問紙に答えていただいています。

親子の新しい行動の習慣づくり!

らぶはび♡ペアレントプログラム

LOVING HABITS



4～10歳のお子様を持つ保護者の方々にご協力をお願いしています!

子どもの切り替えが難しいと感じることはありませんか?

「ご飯なのに、なかなか遊びをやめてくれないな〜」
「ゲームをやめて、宿題をしてくれないかな〜」などなど。〇〇

プログラムの効果を見るためにモニターを募集することがあります!

- LINEでかわいいアニメ動画と子育てヒントのメッセージが届きます。それを観て実際にトライ。
- 参加前後の質問紙に回答
- ご感想・ご意見を、オフ会でおしゃべり



お問い合わせ: lovinghabits@oist.jp

☆このプログラムは、注意力や活動レベル、衝動性などで困り感がある子どもたちの特徴の研究を基に開発しています。

☆「切り替え」のコツなどに興味のある方なら誰でも、そして、忙しくても気軽に試していただける内容となっています。

☆幼稚園の先生や保護者と一緒に作ったプログラムです。アニメのシナリオやキャラクター作り、セリフのアフレコなどに皆さんの声が反映されています!

☆沖縄科学技術大学院大学(OIST)の古川えみ、宮崎国際大学(MIU)の笠井あやによる共同研究プロジェクト。(日本学術振興会科学研究費助成 #22k03188)

詳細:<https://bit.ly/lovinghabitsgroups>



えみ

OIST子ども研究所グループリーダー。米国ジョージメイソン大学で臨床心理学博士号及びバージニア州臨床心理士の資格を取得。小児病院や外国にルーツを持つ家族をサポートするNGOで児童心理を専門としたカウンセリング、アセスメント、コンサルテーションの経験を積む。OISTでは、脳画像を使った行動の基礎研究から得た知識を、親子や地域のサポートに繋げていくため、支援プログラムの開発やプロジェクトを実施。子どもの特性に合った工夫やサポートが、より多くの人々に届くような社会実装を目指している。

コミュニティー・パートナー登録らぶはび オンラインアンケート

LOVING
HABITS



OIST子ども研究所では、ADHD
(注意欠如多動症)の研究結果
を親子のサポートにつなげて
いきたいと考えています!

今後の調査研究や支援プログラムの
共同開発、イベントへの参加にご興味
がおりの方は、QRコードから連絡先
(名前、メールアドレス、電話番号)の
登録をお願いします。



後日ご連絡させていただきます。

<https://bit.ly/コミュニティーパートナー>

ペアレントサポート
アワード!!

おしゃべり会
トークイベント

LINEでの試験プログラムに
モニター参加

経験や毎日の工夫から
生まれる子ども支援の
アイデアをシェア!

色々な特性を持つ子どもたちを応援
する方法について、幅広いアイデアを
集めています。

みなさんの毎日の工夫を教えてください!

注意の向け方や、活動レベル、行動の瞬発さなどが周りと違って
いて、困り感がある子どもたちへの支援の充実を目指しています。

投稿をお持ちしています!

☆家庭や学校、その他の生活の場で、子どもたちを支えている
保護者や支援者の方々
☆自分で困り感を体験したことがある成人の方々

みんなの力で子どもたちを応援しよう!



<http://lovinghabits.info/>



私の声で応援する